

「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」第8回意見交換会を開催

四国総合通信局(局長:磯 寿生)は、令和3年7月8日(木)、当局会議室およびWeb会議システムにて「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」の第8回目の意見交換会を開催しました。本ネットワークは、四国管内で電波分野の研究に取り組む研究者の交流及び意見交換の場を設けるとともに、電波に関する技術情報や利活用・実証実験の事例も共有することにより、研究者をサポートすることを目的に立ち上げたもので、管内の4大学、5高等専門学校と管外の3大学から20名の研究者が参加しています。

第8回目の意見交換会は、合計29名(本ネットワーク参加研究者12名、発表者3名、傍聴者等14名)が参加し、活発な意見交換と情報共有が行われました。会議の概要は次のとおりです。

【研究者による研究開発成果の紹介1】

株式会社レイドリクスの長尾CTOから、「無線LANを用いた災害時の人体位置高精度推定システムの開発」というテーマで、時刻同期の技術が高精度測位に転用できることに着目し、無線LANデバイスにより高精度測位を実現する技術の紹介がありました。さらにそこから発展させ、無線LANデバイスを持っていない人も検出する、無線LANセンシングに関する技術の紹介がありました。

【研究者による研究開発成果の紹介2】

香川大学創造工学部の李助教から、「移动通信におけるアンテナのOTA測定と電波ばく露評価に関する研究」というテーマで、多重波環境下でアンテナの評価を定量的に、かつ屋内で容易に実施できる装置開発手法技術の紹介と、電波ばく露に関する無線機器の適合性評価の紹介がありました。

【愛媛県の情報化の取組み紹介】

愛媛県産業技術研究所の浦元主任研究員から、「5G活用推進に向けた愛媛県産業技術研究所の取組み」というテーマで、シールドルームや測定器の紹介のほか、研究所敷地内に構築したローカル5G実証フィールドを5G関連技術の開発促進のために県内企業の方々に利用していただきたい旨の説明がありました。併せて、産学官の共同による5Gの活用方策の研究に関する事業の紹介がありました。

【情報通信研究機構からの情報提供】

四国内の研究者との研究連携状況について紹介がありました。その他に、委託研究・テストベッドの紹介と、NICTの研究開発成果集の改訂について説明がありました。

四国総合通信局では、産学官の共同研究や社会実装を見据え、民間企業を含めた地域課題解決に資する研究開発についての意見交換会を引き続き開催してまいります。



＜意見交換会の様子＞



＜研究開発成果等の紹介の様子＞

【お問い合わせ先】
無線通信部 電波利用企画課
電話:089-936-5071